

シルバー世代の女性衣服に関する研究(第1報)

—北海道胆振管内におけるシルバー世代の女性衣服に関する実態調査—

伊藤好恵

A Study of Women's Clothing Advanced in Years (The First Report)

— Research on the Actual Conditions of Women's Clothing Advanced
in Years in Iburi Area of Hokkaido —

Yoshie Ito

1. はじめに

中年・高齢へと加齢に伴い、体型がさまざまに変化すると共に、衣服のサイズ、着心地などの不適合やデザイン、色彩の嗜好など感性にも変化が生じると推測される。

高齢者女性のファッションに対する関心、ドレス・アイテムのデザイン別嗜好、着装衣服の適合性など衣服に関する実態調査を帽子・靴・アクセサリまでを含めた服飾全体に関する内容をアンケート形式により調査集計を行った。

これから急速に進む高齢化社会に向かい、アパレル企業も数年前より高齢者範囲まで及ぶ幅広い年代層の衣服に対し、いろいろな角度から研究・開発を始めている。

高齢者が快適な衣生活を送るために、加齢によるさまざまな特徴を見出し、着脱が容易で着心地とファッション性を加味した衣服製作を考案することを目的として、この調査を実施した。

また、タイトルについては社会的・学問的分野において、一般に65歳以上の人を高齢者という名称を使用しているが、高齢化社会へ移行する中で平均寿命も伸び続けており、従来の高齢者と異なる価値観やライフサイクルを持っている。また、服における一般的区分けは、ミドル(45～55歳)、シニア(55～65歳)、シルバー(65歳以上)という名称を使用することから、研究の年代対象とアンケートの対象者に対しても適切と考え、高齢者を“シルバー世代”の名称とした。

アンケートの設問は対象者に理解しやすい名称を使用し、本論では専門用語に変更し記述している。

II. 調査概要

1. 調査対象 胆振管内15市町村に在住する50歳～80歳以上の女性
2. 調査期間 2001年5月10日～9月30日
3. 回答者数 789名

胆振管内の各教育委員会が主催する生涯学習、老人大学等の学習機関に参加した対象者

地域別対象者の内訳

(総数 789名)

室蘭市	117名	登別市	45名	伊達市	56名	苫小牧市	178名	虻田町	14名
豊浦町	57名	洞爺村	52名	大滝村	9名	壮瞥町	27名	白老町	60名
追分町	52名	早来町	28名	厚真町	16名	鶴川町	20名	穂別町	58名

4. 調査方法 (1)アンケート調査

(2)単一回答

- 胆振管内15市町村教育委員会主催の各学習講座終了後に実施
- 各地域における教育委員会のアンケート依頼担当者が記入上の留意点を説明、指導後に記入
- アンケート用紙は講習日の参加予定数に合わせ郵送し、実施終了後、確認の上、担当者が返送する。

5. 回収率 100% • 記入終了直後に回収

6. 回答率 94.4% • 有効回答者数 745名
• 集計不可能な回答用紙は無効回答者とした。

7. 全ての集計図に関して、無回答は含めていない。

8. 調査内容

- A. 調査対象者について
- B. 色彩
- C. 衣服のデザイン・素材
- D. 身体への適合性・着心地
- E. その他

上記の内容を含む42項目を設問し、衣服に関する不満と要望については記述式とした。

Ⅲ. 調査結果と分析

A. 調査対象者について

(1) 年齢構成

対象者の年齢は50歳代、60歳代、70歳代、80歳以上で全体の割合は図1に示す通りである。

年代層の多い順としては、70歳代、60歳代、80歳以上、50歳代の順である。60歳・70歳代は全体の82.3%で80歳以上は9.4%である。(図1)

これを人数で表すとP.7の表1に示す通りである。

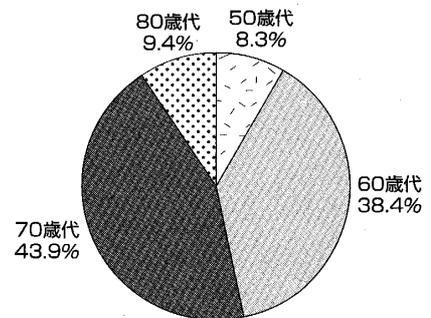


図1. 調査対象者年齢構成

表1. 有効回答者数 745名（無回答者は含まない）

50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上
62名	286名	327名	70名

(2) 家族構成

対象者の家族構成は、夫婦2人暮らしが一番多く46.1%、子供と同居が24.8%、1人暮らしが29.2%と多い割合を占めている。(図2)

1人暮らしが多いのは、70歳代・80歳以上でそれぞれの年代の約30%前後となっている。

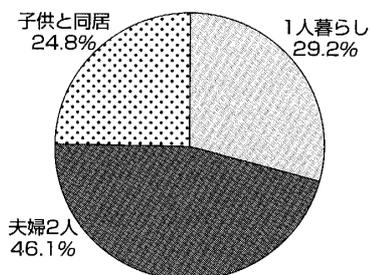


図2. 家族構成

(3) 職業の有無

有職の割合は、13.3%と低く、無職は、86.7%である。

表2では、全体の割合と各年代別の割合を示した。

表2. 職業の有無

	全 体	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
有 職	13.3%	3.7%	4.7%	4.1%	0.8%
無 職	86.7%	4.8%	34.0%	39.7%	8.2%

(4) 日中の生活時間

日常のライフスタイルにより、ファッション・ニーズや服種の所持数が異なると思われ設問を行った。結果は、図3に示す通りである。

家にいる時間が多い人は32.1%、外出時間の多い人は20.3%、半々位が47.6%と約半数弱を占めている。高齢になっても女性の社会進出により外出する機会を作っている。

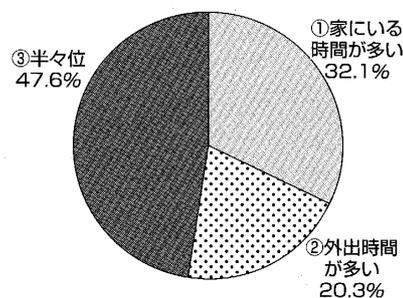


図3. 日中の生活時間

(5) おしゃれの関心度

装うことは、自覚的行動である。機能性の面ばかりではなく、ストレス解消や気分転換など精神面にも効用がある。おしゃれ心を失わず装う事にどの程度関心を持っているのか、おしゃれに対する関心度の結果を図4に示し、年代別比較を図5に示した。

おしゃれに関心があると答えた人は、52.9%と約半数を占め、まあまあある41.7%を加えると90%以上になり、年齢に関係なくおしゃれに関心を持っていることがこの結果から分かる。

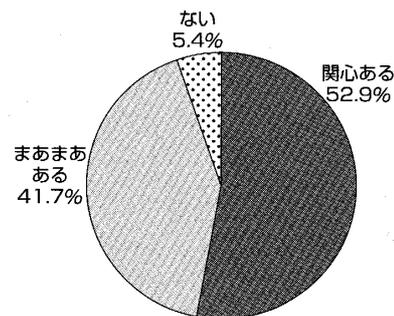


図4. おしゃれの関心度

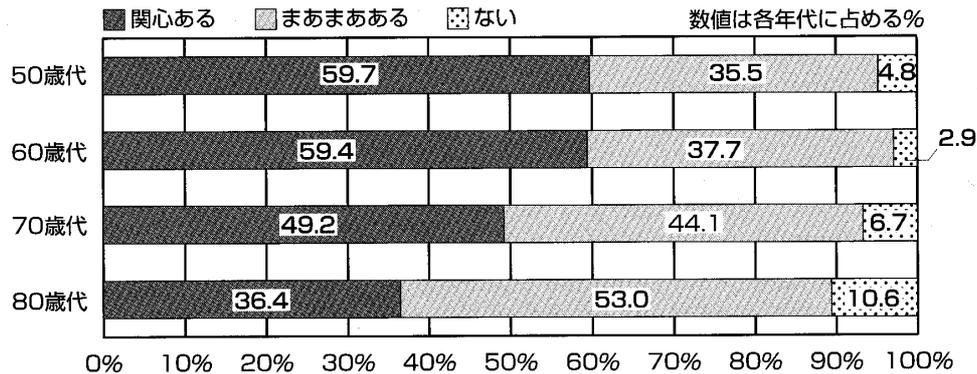


図5. 年代別おしゃれの関心度

B. 色彩

衣服は「シルエット・デザイン」「色彩」「素材」などによって構成されている。その中でも色彩は、一番先に視覚に入る部分で、ドレスのレイアードやワードローブにおいて関係する重要なポジションと言える。

加齢女性には、今まで、年齢と色についての固定概念があったが、嗜好色でこの結果を注目したい。

(6) 衣服の所持数で一番多い色

この設問は対象者の衣服の基本色として捉え、7色に設定した。

結果は、紺・ベージュ・茶・黒・ワイン・グレー・紫の順となり、図6に示す通りである。

年代別の色順位を2番目まで記すと、50歳代はベージュ・黒と紺、60歳代は紺・ベージュ、70歳代はベージュ・紺、80歳以上は紺・ベージュと50歳代の黒を除き、各年代とも紺とベージュが1位と2位を占める結果となった。ベージュは顔を明るく見せ、他色との組み合わせも良く、紺はモノトーンに匹敵するダーク色で顔うつりが良い色で着用用途が広く、共にレイアードしやすく、基本色として有効な色である。

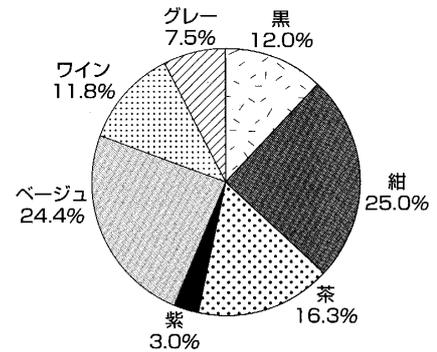


図6. 一番多い衣服の色

【7～12の設問について】

この設問は、2001年の流行に関するデータを色彩で把握する方法として実施した。設問に関しては、日本色研事業株式会社発行の2001年春夏・秋冬ディレクション・カラーの実物を使用し、別表の各シーズン別、流行色の中から選択し、単一回答をしてもらった。

【2001年春夏ディレクション・カラー系統色名 29色】

- | | | |
|------------------------|---------------------|--------------------------|
| 1. strong yellow green | 11. light gray | 21. bright orange |
| 2. olive green | 12. white | 22. strong yellowish red |
| 3. dull yellow | 13. yellowish white | 23. strong red purple |

4. light yellowish green	14. beige	24. strong violet
5. dull green	15. brown	25. grayish sky
6. light orange	16. grayish blue	26. pale sky
7. pink	17. black	27. light grayish purple
8. light violet	18. strong blue	28. grayish pink
9. light blue	19. strong green	29. grayish purple
10. light bluish green	20. bright yellow green	

(7) 春夏の色で一番好きな色【表3. 上位7位までの表記】

表3.

順位	1	2	3	4	5	6	7
色番号	4	7	3	8	28	14	10
色名	light yellowish green	pink	dull yellow	light violet	grayish pink	beige	light bluish green
人数	73	72	61	53	45	38	35

上位5色までを記すと、春夏の注目カラーであるNo.4 light yellow green 10.7%で一番多く、No.7 pink 10.5%、No.3 dull yellow 8.9%、No.8 light violet 7.7%、No.28 grayish pink 6.6%の順で、6～29位までの色名総計は55.6%となり、顕著な差はなく徐々に減少している。(図7)…P.14

(8) 春夏で一番着用したい色【表4. 上位7位までの表記】

表4.

順位	1	2	3	4	5	6	7
色番号	28	7	8	4	10	6	3
色名	grayish pink	pink	light violet	light yellowish green	light bluish green	light orange	dull yellow
人数	63	60	58	54	52	31	30

上位5色までを記すと、No.28 grayish pink 9.5%、No.7 pink 9.1%、No.8 light violet 8.8%、No.4 light yellowish green 8.2%、No.10 light bluish green 7.9%の順で、6位から29位までの色名総計は56.5%の結果になった。(図8)…P.14

図7と図8で示すように、2位のpinkだけ同様だが、好きな色と着用したい色は一致しないことを示している。

【表5. 年代別上位の表記】 - 1位の人数が多い年代順に列記 -

【70歳代】	順位	1	2	2	4
	色番号	28	8	4	7
	色名	grayish pink	light violet	light yellowish green	pink
	人数	32	28	28	24

【60歳代】	順位	1	2	3	3	3
	色番号	7	28	10	8	4
	色名	pink	grayish pink	light bluish green	light violet	light yellowish green
	人数	29	25	18	18	18

【80歳以上】	順位	1	2	2	4	4	4
	色番号	8	4	10	27	26	3
	色名	light violet	light yellowish green	light bluish green	light grayish purple	pale sky	dull yellow
	人数	9	5	5	4	4	4

【50歳代】	順位	1	1	3	4	4
	色番号	10	23	7	6	28
	色名	light bluish green	strong red purple	pink	light orange	grayish pink
	人数	7	7	6	4	4

※ 各年代別1位の色名は(図8-1)にカラー表記…P.14

(9) 2001年春夏に着用したいアイテム別の色【上位3位まで表記】

① トップで着用したい色(Tシャツ、セーターなど上衣)…(表6)

表6. トップで着用したい色

pink 7.2%、grayish pink 6.9%、yellowish white と light violet は 6.8% でピンク系オフホワイト、紫系統の色が上位と

順位	1	2	3	3
色番号	7	28	13	8
色名	pink	grayish pink	yellowish white	light violet
人数	50	48	47	47

なった。4位から29位までの色名総計は72.3%である。(図9-①)…P.14

② ボトムで着用したい色(スカート・パンツなど下衣)…(表7)

表7. ボトムで着用したい色

上位3色までを記すと、black 13.8%、grayish blue 13.0%、beige 11.6% で黒、紺、ベージュが上位となった。4位から29位までの色名総計は61.6%である。(図9-②)…P.14

順位	1	2	3
色番号	17	16	14
色名	black	grayish blue	beige
人数	95	90	80

③ ワンピースで着用したい色…(表8)

表8. ワンピースで着用したい色

上位3色までを記すと、No.9 light blue 7.8%、grayish pink 7.3%、light grayish purple 7.2% で、ブルー、グレー味のピンク・紫が上位となった。4位から29位までの色総計は77.7%である(図9-③)…P.14

順位	1	2	3
色番号	9	28	27
色名	light blue	grayish pink	light grayish purple
人数	52	49	48

④ スーツで着用したい色…(表9)

beige 9.4%、grayish purple 8.7%、grayish sky 8.5% でベージュ、グレー味の紫、青が上位3色となり、4位から29位までの色名総計は73.4%である。スーツはワンピースよ

り落ち着いた色になっている。

春夏シーズンの嗜好色は、全体として明るく綺麗な色が選択されている。嗜好色が広範囲に広がったのは、色数の多さと迷いが原因と推測される。

(図9-④)…P.14

表9. スーツで着用したい色

順位	1	2	3
色番号	14	29	25
色名	beige	grayish purple	grayish sky
人数	64	59	58

[2001年秋冬ディレクション・カラー系統色名 28色]

1. bright reddish orange	11. grayish yellow	21. strong greenish blue
2. light purple	12. soft orange	22. strong violet
3. light violet	13. brown	23. light blue green
4. vivid yellow	14. yellowish brown	24. strong blue
5. strong yellow green	15. dark red	25. dull red purple
6. bright blue green	16. dark grayish brown	26. vivid reddish orange
7. white	17. grayish olive	27. purplish pink
8. yellowish white	18. olive gray	28. vivid red
9. light gray	19. dark grayish violet	
10. beige	20. black	

(10) 秋冬の色で一番好きな色【表10. 上位7位までの表記】

表10.

順位	1	2	3	4	5	6	7
色番号	15	13	19	24	14	16	25
色名	dark red	brown	dark grayish violet	strong blue	yellowish brown	dark grayish brown	dull red purple
人数	116	45	39	38	37	35	32

上位5色までを記すと、No.15 dark red 16.9%、No.13 brown 6.6%、No.19 dark grayish violet 5.7%、No.24 strong blue 5.5%、No.14 yellowish brown 5.4%、6位から28位までの色名総計は59.9%である。その他の色は、少数で色数が広範囲になっている。特徴として1位と2位の差が大きく、3位からは徐々に減少している。(図10)…P.14

(11) 今年の秋冬に一番着用したい色【表11. 上位7位までの表記】

表11.

順位	1	2	3	4	5	6	7
色番号	15	25	13	19	28	16	14
色名	dark red	dull red purple	brown	dark grayish violet	vivid red	dark grayish brown	yellowish brown
人数	83	56	36	35	34	32	30

上位5色までを記すと、No.15 dark red 12.6%、No.25 dull red purple 8.5%、No.13 b

rown 5.5%、No.19 dark grayish violet 5.3%、No.28 vivid red 5.2%、6位から28位までの色名総計は62.9%となり、一番好きな色と比較すると、1位はdark redと同様である。2位は落ち着いた紫になっており、3位は茶、4位は紺系統の色、5位が鮮やかなオレンジに近い赤で、加齢者にとってビビットな色が注目される。(図11)…P.14

※(図7)(図8)(図10)(図11)は上位5位までカラー表記

【表12. 年代別上位の表記】 - 1位の人数が多い年代順に列記 -

【70歳代】	順位	1	2	2	4	4	4	
	色番号	15	25	14	6	12	10	
	色名	dark red	dull red purple	yellowish brown	bright blue green	soft orange	beige	
	人数	33	31	20	14	14	14	
【60歳代】	順位	1	2	3	3	3		
	色番号	15	28	25	13	3		
	色名	dark red	vivid red	dull red purple	brown	light violet		
	人数	33	23	20	19	15		
【50歳代】	順位	1	2	3				
	色番号	15	28	19				
	色名	dark red	vivid red	dark grayish violet				
	人数	14	7	5				
【80歳以上】	順位	1	1	3	3	3	3	
	色番号	22	18	16	3	25	20	
	色名	strong violet	olive gray	dark grayish brown	light violet	dull red purple	black	dark grayish violet
	人数	5	5	4	4	4	4	4

※ 各年代別1位の色名は(図11-1)にカラー表記…P.14

(12) 2001年秋冬に着用したいアイテム別の色【上位3位まで表記】

① トップで着用したい色(セーター、ジャケットなど上衣)…(表13)

表13. トップで着用したい色

順位	1	2	3	3	3	3
色番号	15	25	11	14	17	19
色名	dark red	dull red purple	grayish yellow	yellowish brown	grayish olive	dark grayish violet
人数	82	50	33	33	33	33

上位3色を記すと、No.15 dark red 12.0%、No.25 dull red purple 7.3%、3位は4色あり、No.11 grayish yellow、No.14 yellowish brown、No.17 grayish olive、No.19 dark grayish violetが4.8%であった。4位から28位までの色名総計は61.5%である(図2-②)…P.14

②ボトムで着用したい色（スカート、パンツなど下衣）…(表14)

表14. ボトムで着用したい色

上位3色を記すと、No.20 black 19.3%、No.19 dark grayish violet 15.6%、No.18 olive gray 12.7%である。4位から28位までの色名総計は52.4%である。ボトムは黒、紺系統、オリーブなどダーク系の色が好まれ、他のアイテムより多い割合となっている。

順位	1	2	3
色番号	20	19	18
色名	black	dark grayish violet	olive gray
人数	131	106	86

(図12-②)…P.14

③ワンピースで着用したい色…(表15)

表15. ワンピースで着用したい色

上位3色を記すと、No.25 dull red purple 11.5%、No.15 dark red 8.1%、No.10 beige 6.6%で、4位から28位までの色名総計は73.8%である。他のアイテムと異なるのは、初めてbeigeが加わったことである。(図12-③)…P.14

順位	1	2	3
色番号	25	15	10
色名	dull red purple	dark red	beige
人数	75	53	43

④スーツで着用したい色…(表16)

表16. スーツで着用したい色

上位3色を記すと、No.19 dark grayish violet 10.9%、No.25 dull red purple 9.7%、No.18 olive gray 8.5%で、設問(6)衣服の所持数が一番多かった色の紺と一致した結果になった。4位から28位までの色名総計は70.9%である(図12-④)…P.14

順位	1	2	3
色番号	19	25	18
色名	dark grayish violet	dull red purple	olive gray
人数	73	65	57

⑤コートで着用したい色…(表17)

表17. コートで着用したい色

上位3色を記すと、No.20 black 14.8%、No.19 dark grayish violet 12.0%、No.18 olive gray 10.4%の結果となった。4位から28位までの色名総計は62.8%である。コートは一番外側に着用する外衣で、ダークカラーの黒、紺系統と着用用途の広い色になったと推測される。(図12-⑤)…P.14

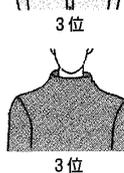
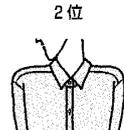
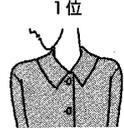
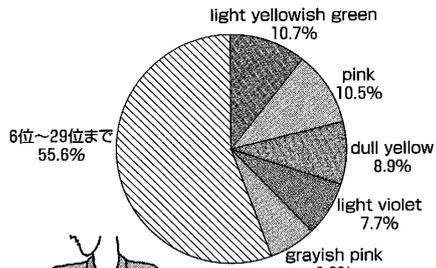
順位	1	2	3
色番号	20	19	18
色名	black	dark grayish violet	olive gray
人数	100	81	70

また設問(7)から(12)までの結果を実際の色で表すと14ページの図7から図12に示す結果となる。着てみたい色の1位を年代別で比較すると、春夏は全て異なる色となり(図8-1)、秋冬はdark redが70歳代まで同じ色になっている。80歳以上は、春夏light violet・秋冬strong violetと各シーズン紫系統を好んでいる。(図11-1)…P.14

なお、春夏の図9-①トップの衿型、②スカートのデザイン、③ワンピースのデザインは色名の順位とデザインの順位が同時に把握できる表記法にしている。

また、秋冬の図12-①・②・③も同様の表記法である。他の④スーツと⑤コートについては、同じデザインに色名の順位・割合を表記している。

(図7) 春夏で好きな色



(図8) 春夏で着用したい色

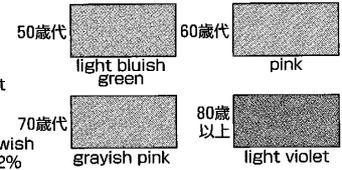
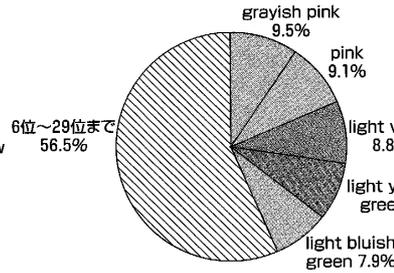


図8-1 各年代別1位の色

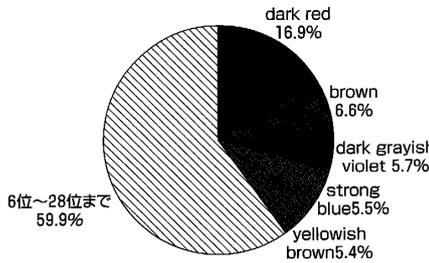
図9-① トップ

図9-② ボトム

図9-③ ワンピース

図9-④ スーツ

(図10) 秋冬で好きな色



(図11) 秋冬で着用したい色

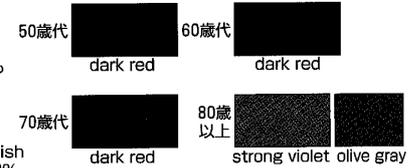
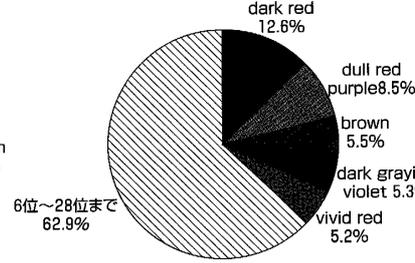


図11-1 各年代別1位の色

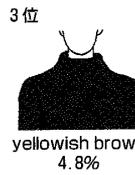
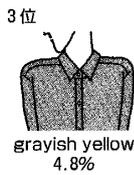
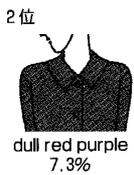
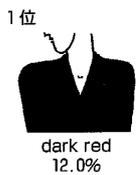


図12-① トップ

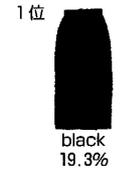


図12-② ボトム

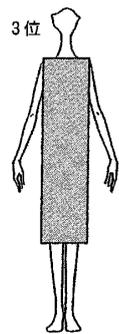


図12-③ ワンピース



図12-④ スーツ



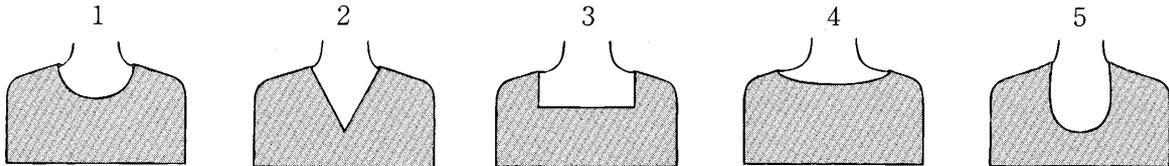
図12-⑤ コート

C. 衣服のデザイン・素材

ファッションは、常に新しさを加えながら変化していく特徴を持っている。ドレスのアイテム別デザインも同様のことが言える。(13)から(17)までの設問は、現在おもに着用しているデザインを選択してもらった。デザインの種類は、流行を含めると多種多様に及ぶため、最も基本的なデザインを文化学園の教科書から抜粋した。

(13)－① 衿なし (おもに着用しているネックラインのデザイン)

1. ラウンド・ネックライン 2. プイ・ネックライン 3. スクエア・ネックライン 4. ボート・ネックライン 5. ユー・ネックライン



衿がないデザインなので、顔の形をカバーし、バランスのとれた美しい顔に見せるネックラインを選択することが大切である。

一番多く着用されていたのは、ラウンド・ネックライン64.3%、次からはかなり少なくなり、ボート・ネックライン18.5%、プイ・ネックライン12.1%、ユー・ネックライン3.0%、スクエア・ネックライン2.1%の結果となった。(図13-①)

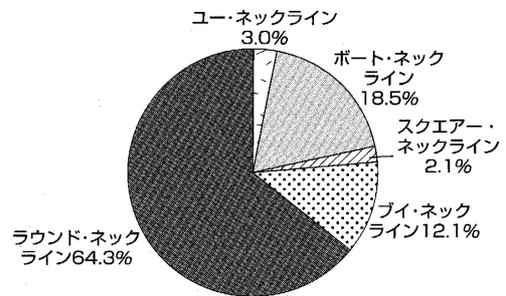
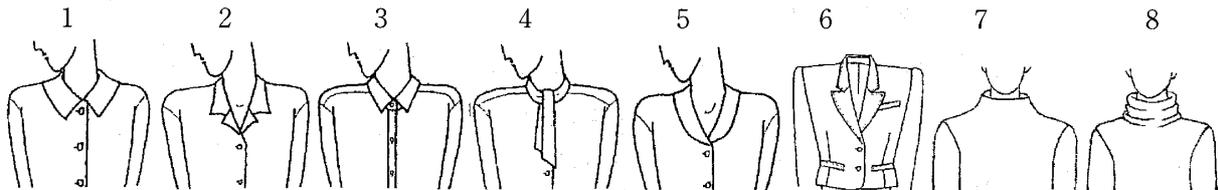


図13-① 衿なし

(13)－② 衿つき

1. シャツ・カラー 2. オープン・カラー 3. 台衿つきシャツ・カラー 4. タイ・カラー 5. ショール・カラー 6. テーラード・カラー
7. ハイネック・カラー 8. ドレープ・カラー



ブラウス、ジャケット、ニットなど様々な服種の衿8種類を抜粋し、選択してもらった。

一番着用されていたのは、オープン・カラー34.6%で、その割合の中で70歳代が半数弱と特に多い。シャツ・カラー28.6%、台衿つきシャツ・カラー10.4%、ハイネック・カラー8.4%、ショール・カラー5.4%、タイ・カラー5.3%、テーラード・カラー4.2%、ドレープ・カラー3.1%の結果になった。

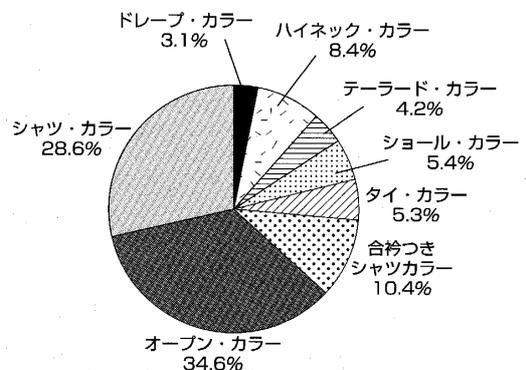


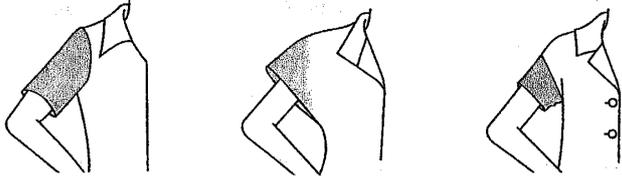
図13-② 衿つき

(図13-②)

(14) おもに着用している袖のデザイン

①半袖

1. セットインスリーブ 2. キモノスリーブ 3. ドロップショルダースリーブ



半袖で一番多く着用されているのは、セットインスリーブで全ての年代を通して圧倒的に多く84.0%、ドロップショルダースリーブ8.8%、キモノスリーブ7.2%の割合となった。結果は、図14-①に示す通りである。

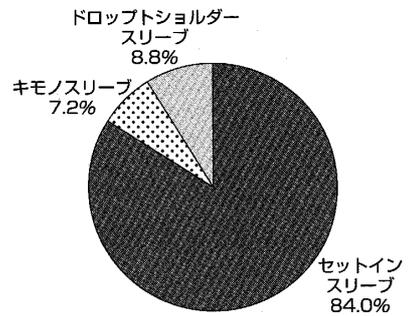
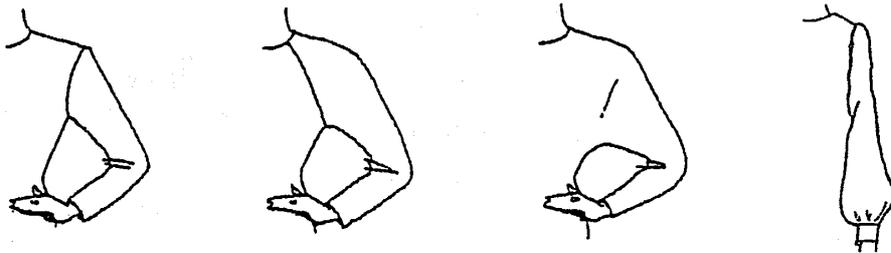


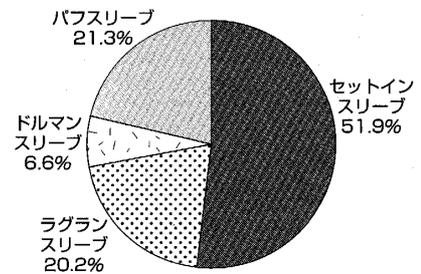
図14-① 半袖

②長袖

1. セットインスリーブ 2. ラグランスリーブ 3. ドルマンスリーブ 3. パフスリーブ



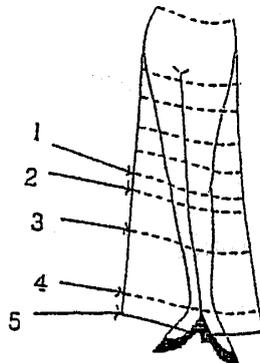
長袖で一番多く着用されているのは、セットインスリーブ51.9%で全ての年代に多い。次はパフスリーブ21.3%、ラグランスリーブ20.2%、ドルマンスリーブ6.6%の割合になった。結果は図14-②に示す通りである。



スカート丈の位置

(15) スカートの丈

1. ニー・レングス
2. ミモレ
3. ミディ
4. アンクル・レングス
5. フル・レングス

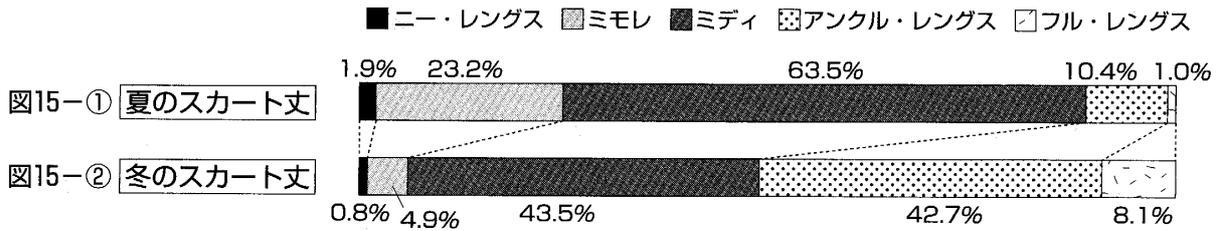


①夏

夏で一番多く着用されているスカート丈は、ミディ63.5%で全ての年代を通して顕著に多い。次は、ミモレ23.2%、アンクル・レングス10.4%、ニー・レングス1.9%、フル・レングス1.0%の順になった。

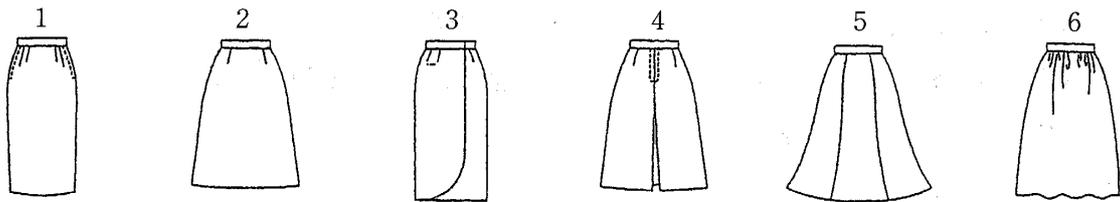
②冬

冬で一番多く着用されているスカート丈は、夏と同様にミディで43.5%、アンクル・レングス42.7%の結果となった。他は、フル・レングス8.1%、ミモレ4.9%、ニー・レングス0.8%の順である。胆振地方の冬は寒いためにアンクル・レングスが夏より多くなったと推測される。夏と冬のスカート丈の結果を一緒に比較すると、図15-①と②に示す通りである。



(16) スカートのデザイン

1. タイトスカート 2. セミタイトスカート 3. ラップスカート 4. インバーティドプリーツスカート 5. トランペットスカート 6. ギャザースカート



シンプルなデザインで加齢者の体型を考慮の上、6種類のデザインを選択した。

結果はタイトスカート28.8%、セミタイトスカート28.0%、トランペットスカート17.5%、インバーティドプリーツスカート10.6%、ギャザースカート10.1%、ラップスカート5.0%の順になっている。シンプルで流行に関わりないタイトスカート、セミタイトスカートが半数以上を占め、体型を細く見せるトランペットスカートが次に多い割合になっている。(図16)

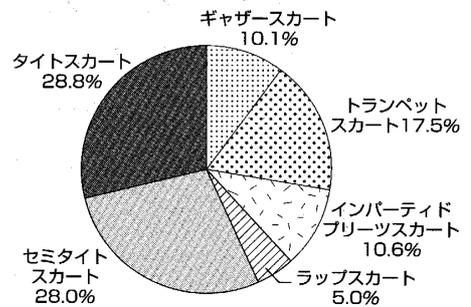
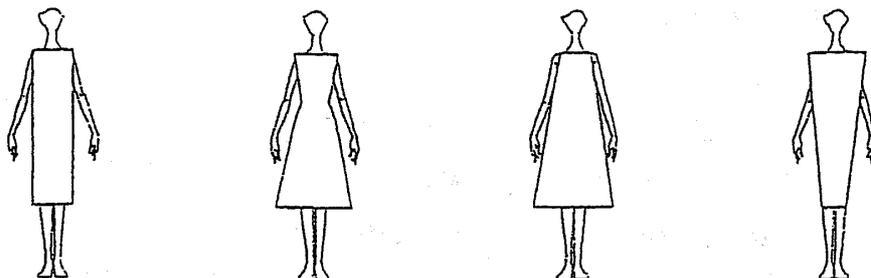


図16. スカートのデザイン

(17) ワンピースで、おもに着用するデザイン (シルエット別分類)

1. ストレート型 2. フィットアンドフレア型 3. テント型 4. 逆三角型



多く着用されているワンピースは、フィットアンドフレアー型43.7%とテント型39.9%で全身が細く見えるシルエットが約80%以上になった。

ストレート型15.9%、逆三角型0.5%は丈のバランスや着こなしが難しいデザインであり、このような結果になったと推測される。(図17)

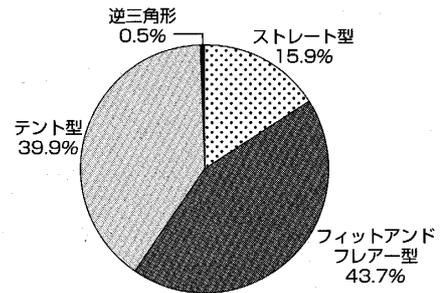


図17. ワンピースのデザイン

(18) 一年を通して、着やすい素材の選択

【1.伸びる布 2.軽い布 3.ウール 4.化繊 5.木綿】

回答者には、あらゆる素材のストレッチの布を『伸びる布』と理解しやすい表現を使い、5種類の布帛から選択してもらった。

軽い布32.2%が一番多く着用されており、ストレッチ素材28.8%、木綿14.5%、ウール14.1%、化繊10.4%の結果となった。軽く、動きに応じて伸びる素材は年齢に関係なく上位を占めている。(図18)

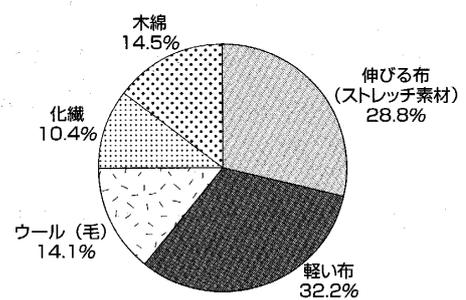


図18. 着用しやすい素材

D. 身体への適合性・着心地

(19) 体型の種類

【1.痩せ型 2.ふくよか型 3.背中が丸い 4.標準体型】

体型は専門分野で表記すると複雑で種類が多く、設問を理解しやすい表現で示した。ふくよか型とは『肥満型』、標準体型は年代別に希少であるが、既製服を直さずに着用できる人と説明を加え、主観的に選択をしてもらった。肥満体型は41.9%で一番多く、年代別に比較すると、50歳代を除き60歳以上全ての人々が該当する。標準体型は33.4%で1から3以外の体型の人が単純に選択した可能性もある。その他、痩せ型14.7%、背中が丸い10.0%の結果となった。(図19)

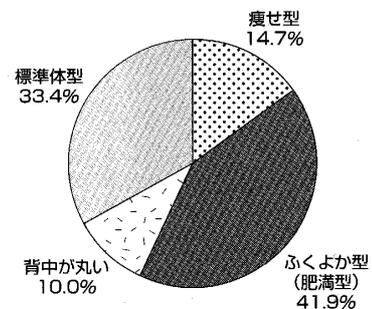


図19. 体型の種類

(20) 体型に適した衣服の着用

【1.はい 2.いいえ】

体型に適した衣服を着用している人は90.6%で、殆どの人がそのように思っており、主観的回答といえる。そうでない人は9.4%でかなり少ない結果になった。(図20)

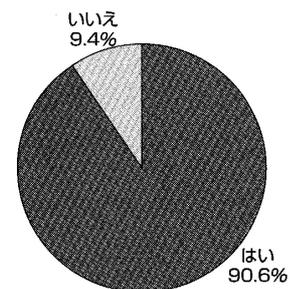


図20. 体型に適した衣服の着用

(21) 衣服に一番ゆとりが必要な部位

【1.首回り 2.バスト 3.ウエスト 4.ヒップ 5.袖ぐり】

加齢になるほど体型に変化が生じ、身体の各部位のゆとりが着心地に関係してくる。ウエスト43.6%、袖ぐり27.1%、首回り13.4%、バスト8.5%、ヒップ7.4%の結果になった。

(図21)

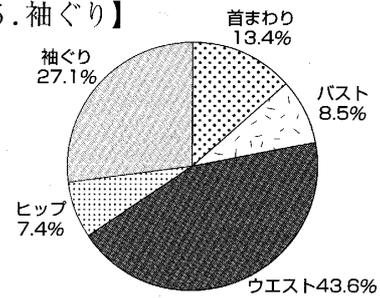


図21. 衣服のゆとり

(22) スカート・パンツのウエストデザイン

【1.ベルト 2.ゴム 3.ベルトとゴムが一緒 4.ひも結び】

前設問でウエストに一番ゆとりが欲しいとの結果が出た。着心地を考慮し、程良いフィット感のある『ベルトとゴムの併用』、今年流行の『ひも結び』を加えて設問を試みた。ベルトとゴムが一緒59.6%で、80歳以上を除いた全ての年代が一番多かった。ベルト型21.9%、ゴム型18.2%である。ゴム型は80歳以上が多く、『ひも結び』は、ウエストサイズのカバー率も良いのだが0.3%と少なかった。『ゴムとひも併用』の表現が良かったとも推測される。(図22)

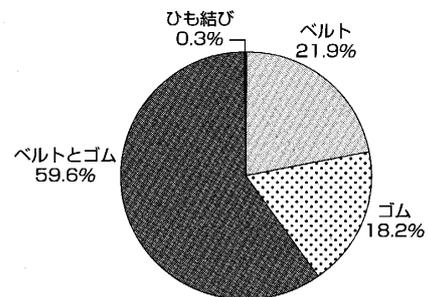


図22. ベルトのデザイン

(23) 衣服購入時に重視すること

【1.色 2.デザイン 3.着やすさ 4.軽い
5.体型に合う 6.洗濯可能】

着やすさ33.0%、体型に合う29.5%、デザイン18.9%、色8.5%、家庭で洗濯ができる6.7%、軽い3.4%で着やすく体型に適合する衣服が求められている結果になった。(図23)

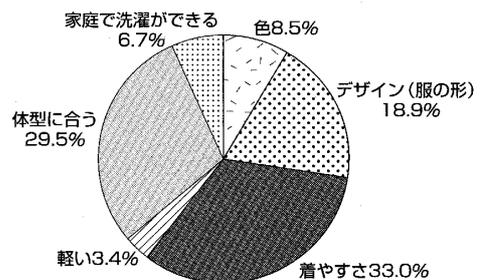


図23. 衣服購入時に重視

(24) 衣服購入時に気に入った服があるか。

【1.ある 2.たまにある 3.ない 4.殆どない】

たまにある63.4%が全ての年代に共通し、大差が多い。ある23.6%、ない7.7%、殆どない5.3%の結果になった。さまざまな条件で気に入った衣服がなかなか見つからないことが理解できる。

(図24)

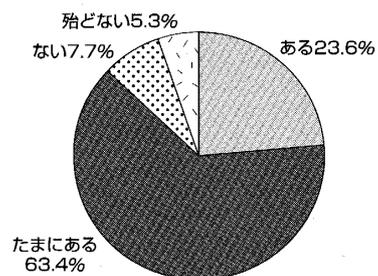


図24. 購入時に気に入った服の有無

(25) 衣服購入時に苦勞すること

- 【1.色 2.デザイン 3.着やすい服がない
4.体型に合わない】

全ての年代を通して、デザインが一番多く48.2%、着やすい服がない23.2%、色16.2%、体型に合わない12.4%の結果になり、加齢者の好むデザインの衣服があまりないことを示している。

(図25)

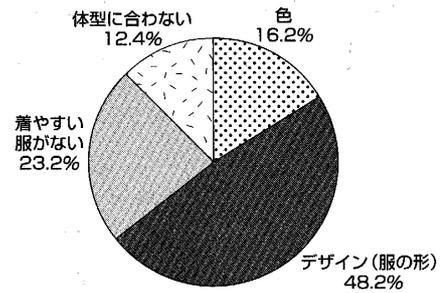


図25. 衣服購入時の苦勞

(26) 体型に合う服がない

- 【1.ワンピース 2.スーツ 3.ブラウス 4.スカート
5.パンツ 6.コート 7.その他】

スーツ33.9%、パンツ19.1%、ワンピース18.5%、ブラウス11.5%、スカート11.1%、コート3.8%、その他2.1%の結果になった。スーツが体型に合わず、購入に苦勞していることが推測される。

(図26)

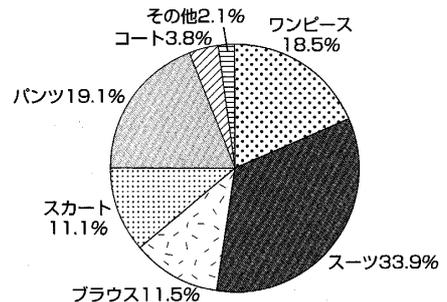


図26. 体型に合う服がない

(27) 着脱しやすい「あき」

- 【1.前あき 2.後ろあき 3.脇あき 4.肩あき】

前あき82.2%、後ろあき11.1%、脇あき4.9%、肩あき1.8%になった。この結果は、着脱の容易や手の動作にも関係する部分である。

(図27)

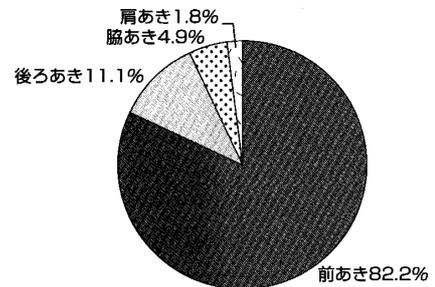


図27. 着脱しやすいあき

(28) [あき]の種類について

- 【1.ボタンあき 2.ファスナーあき
3.ドットボタン 4.マジックテープ】

ファスナーあき50.3%、ボタンあき42.3%、マジックテープ5.7%、ドットボタン1.7%の結果になった。50歳から70歳代までは、ファスナーあきが多く、80歳以上はボタンあきが多くなっている。

(図28)

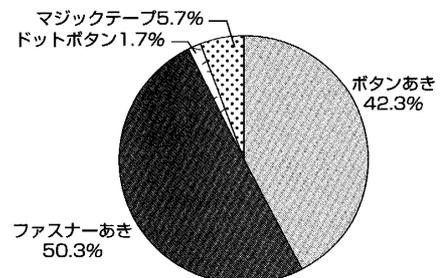


図28. あきの種類

E. その他

(29) 帽子をかぶる

- 【①はい ②いいえ】

①帽子をかぶると答えた人は84.0%、

②かぶらない人16.0%で殆どの人が帽子をかぶっている (図29)

“帽子をかぶると答えた人のみ回答”

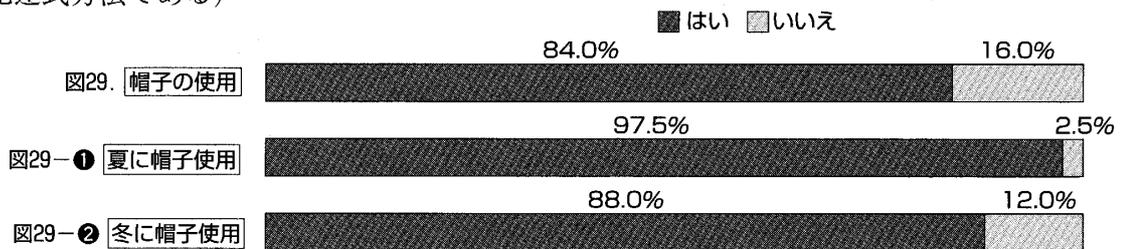
(29)－① 夏に帽子をかぶる 【1はい 2いいえ】

夏に帽子をかぶる人97.5%、かぶらない人2.5%である。(図29－①)

(29)－② 冬に帽子をかぶる 【1はい 2いいえ】

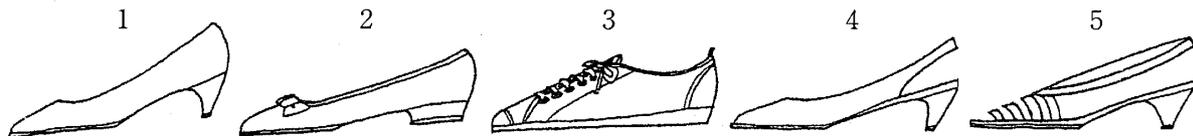
冬に帽子をかぶる人88.0%、かぶらない人12.0%である。(図29－②)

冬に帽子をかぶる人は多いが、夏の割合が若干多い。帽子の種類は、「ブリムが広い・ブリムがある・涼しい・たためる・布製」などがあり、ブリムの大きい帽子が一番多かった。理由は「日焼け防止・髪が薄い・髪が乱れない・暑い・おしゃれ」などである。冬かぶる帽子は、「毛糸・フリース・フェルト・ブリムがある」など素材中心で、「防寒・髪が乱れない・おしゃれ」などの理由である。夏は暑い日差しを防ぐ涼しい帽子、冬は雪や風除けの防寒帽子として使用されており、実用面としての役割が強い。(帽子の種類・着帽理由は記述式方法である)



(30) おもにどの靴を履いているか。

【1. プレーンパンプス 2. カッターシューズ 3. スニーカー 4. オープンバックパンプス 5. サンドル】



カッターシューズ55.9%、スニーカー35.7%、プレーンパンプス5.5%、サンダル1.8%、オープンバックパンプス1.1%の割合になった。半数以上の人が高ヒールの低い履きやすいカッターシューズを履き、スニーカーが次の順位となっている。(図30)

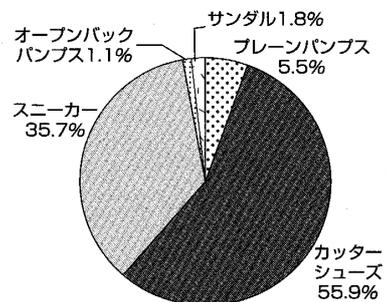
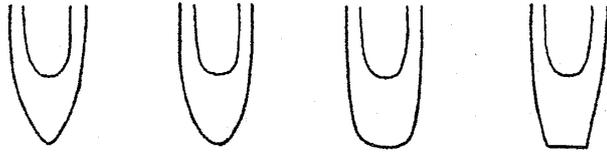


図30. 靴の種類

(31) トウの種類

靴先のプレーンな中丸型45.9%、履きやすい大丸型45.3%で、ケント型5.7%とフレンチ型3.1%は極端に少なくなっている。中丸型と大丸型を合わせると約91%を占め、流行に左右されない履きやすい型が多く好まれている。(図31)

【トウの種類】



1. ケント型 2. 中丸型 3. 大丸型 4. フレンチ型

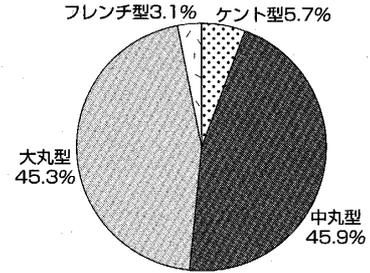
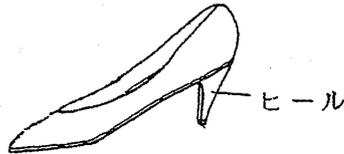


図31. トウの種類

(32) ヒールの高さ

1. 3cm以下
2. 3～4cm位
3. 5cm以上



3cm以下74.1%、3～4cm位21.9%、5cm以上4.0%と低いヒールが大多数で中位の高さも割合は少なく、安定性のある靴が履かれている。

(図32)

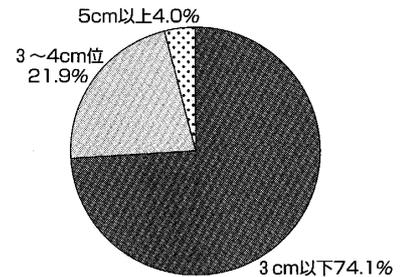


図32. ヒールの高さ

(33) アクセサリーの使用

【①はい ②いいえ】

衣服の装いの仕上げやポイントとして、アクセサリーの存在は大きい。

①アクセサリーをつけている人は83.8%、②つけない人は16.2%の結果となり、殆どの人がアクセサリーを身につけている。(図33)

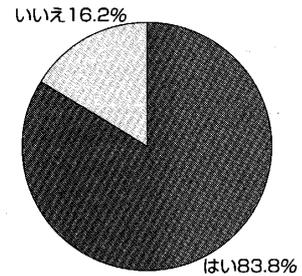


図33. アクセサリーの使用

(33-①) アクセサリーの種類

“(33) で『はい』と答えた人のみ回答”

【①スカーフ ②ブローチ ③イヤリング ④ペンダント】

スカーフ44.4%、ブローチ22.6%、ペンダント21.2%、イヤリング11.8%の割合になった。スカーフは、多目的に使用できるので、一番多い割合になっている。ブローチとペンダントは、衣服のアクセントとして使用されている。ブローチ・ペンダントを共に合わせるとスカーフに近い割合となった。(図33-①)

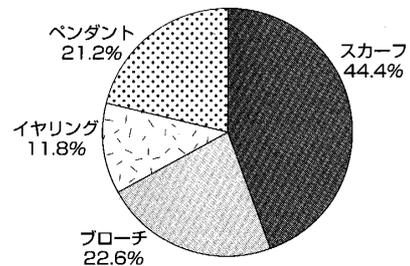


図33-① アクセサリーの種類

(34) 家庭で着用の服

【①ワンピース ②セーターとスカート ③セーターとパンツ ④ブラウスとスカート ⑤ブラウスとパンツ ⑥カーディガンとスカート ⑦カーディガンとパンツ ⑧他】

ホームウエアはセーターとパンツ59.4%が一番多く、セーターとスカート18.3%、ブラウスとパンツ13.2%、ブラウスとスカート5.6%、その他1.3%、ワンピース1.2%、カーディガンとパンツ0.8%、カーディガンとスカート0.2%の割合になった。トップとボトムを別々に比較すると、トップはニットでボトムはパンツが多く着用されている。

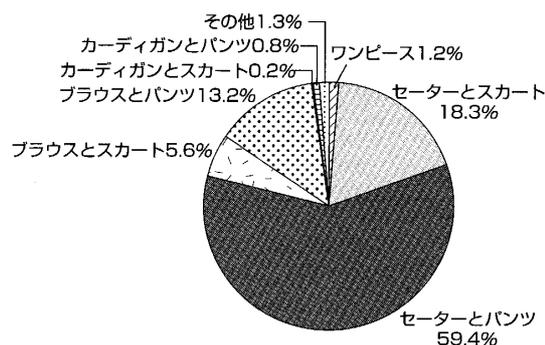


図34 家庭で着用の服

(図34)

(35) 外出で着用の服

- 【①ワンピース ②セーターとスカート ③セーターとパンツ ④ブラウスとスカート
⑤ブラウスとパンツ ⑥スーツ ⑦カーディガンとスカート ⑧カーディガンとパンツ】

家庭着と同様セーターとパンツが一番多く36.2%、ブラウスとパンツ16.8%、セーターとスカート16.6%、ブラウスとスカート13.8%、その他5.9%、スーツ4.5%、カーディガンとパンツ3.8%、カーディガンとスカート1.3%、ワンピース1.1%の割合になった。衣服の品質や雰囲気は異なると推測されるが、家庭着と外出着はあまり変化が見られない。

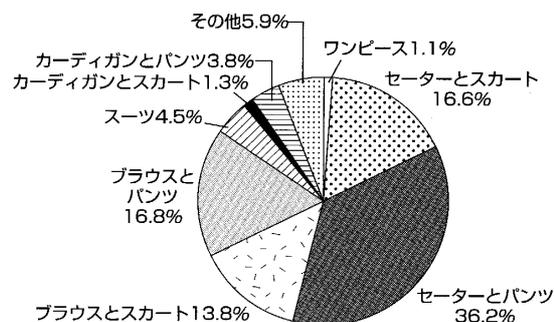


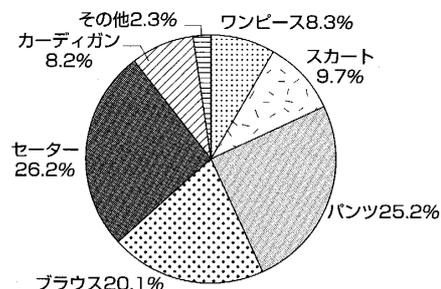
図35 外出で着用の服

(図35)

(36-①) 家庭着で欲しい服

- 【①ワンピース ②スカート ③パンツ ④ブラウス ⑤セーター
⑥カーディガン ⑦その他】

セーター26.2%、パンツ25.2%、ブラウス20.1%、スカート9.7%、ワンピース8.3%、カーディガン8.2%、その他2.3% (Tシャツなど) の割合になった。単品としても上下組合わせでも (設問27) セーターとパンツが一番多い。



(図36-①)

図36-① 家庭で欲しい服

(36-②) 外出着で欲しい服

- 【①ワンピース ②スカート ③パンツ ④ブラウス ⑤セーター ⑥スーツ
⑦ジャケット ⑧カーディガン ⑨その他】

ジャケット28.2%、スーツ26.4%、パンツ11.2%、ブラウス10.8%、スカート7.4%、

セーター6.0%、ワンピース5.9%、カーディガン3.2%、その他0.9%の割合になっている。外出着は、ジャケットやスーツを必要としている人が50%以上もいる。

(図36-②)

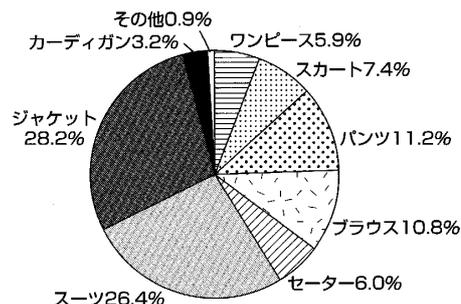


図36-② 外出着で欲しい服

E. その他

(37) 衣服を購入する方法

【①既製品を購入 ②自分で作る ③既製品を購入したり自分で作る ④オーダーする】

既製品を購入する人は、79.8%で全ての年代を通して一番多い。既製品を購入したり自分で作る人17.7%、自分で作る人2.3%を含め、自分で製作した服を着用する人は20%おり、見逃せない部分である。オーダーは0.2%であった。

(図37)

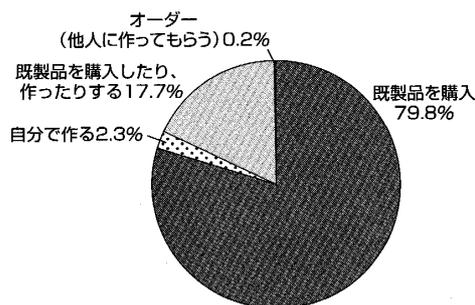


図37. 衣服の購入

(38) 衣服の購入地域

【①室蘭 ②登別 ③伊達 ④苫小牧 ⑤札幌 ⑥その他】

苫小牧40.4%と割合が高いのは、調査対象者に苫小牧市在住者が多いことと、白老町、追分町、早来町、厚真町等の住民が苫小牧市のデパート等を利用している結果である。

室蘭市22.7%、伊達市15.2%も同様に、周辺の登別市、豊浦町、虻田町、壮瞥町などの郡部の住民が出向いている。また、品数の豊富な大都市（札幌8.5%）

での購入も見られる。その他には、記載されていない地元での利用が含まれる。(図38)

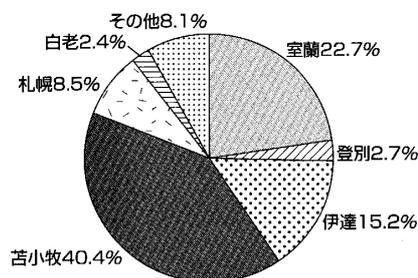


図38. 衣服の購入地域

(39) 日常着の購入

【①デパート ②婦人服専門店 ③スーパー ④ユニクロ ⑤その他】

日常着の購入は、デパート52.0%が一番多く、全ての年代も同様である。婦人服専門店23.8%、スーパーマーケット18.7%、その他3.9%、話題になった安価な量販店ユニクロは1.6%と非常に少なく、予想外であった。(図39)

(40) 外出着の購入

【①デパート ②婦人服専門店 ③スーパー ④ユニクロ ⑤その他】

外出着の購入は、デパート55.2%、婦人服専門店35.5%で、日常着の購入より多くなっており、スーパーマーケット5.6%、その他3.4%、ユニクロ0.3%は減少する結果となった。外出着は、日常着と比較すると品質を重視している。(図40)

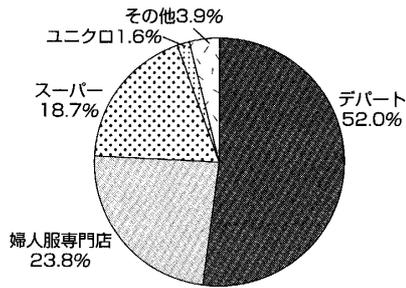


図39. 日常着の購入

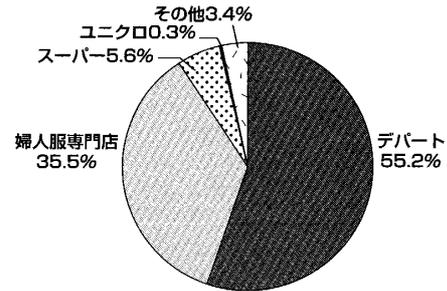


図40. 外出着の購入

(41) 衣服を購入する人

【1. 自分 2. 家族…①夫 ②子供 ③姉妹 3. 知人】

自分の衣服を誰が購入するかの設問に対し本人が97.4%で、衣服は殆ど自分で購入している。家族の2.3%の内訳は、夫、子供などで、知人は0.3%であった。(図41)

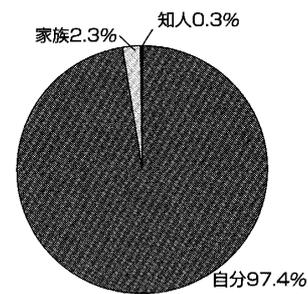


図41. 衣服を購入する人

(42) 外出時にお化粧をする

【1. はい 2. いいえ】

加齢と共にくすんだ肌となり、お化粧は顔を不快色にしない工夫でもあり、表情を明るく変化する。衣服の中の一色を口紅の色と合わせたり、メーキャップとファッションは深い関連がある。

お化粧をしている人は94.7%、しない人5.3%で予想以上の結果であった。(図42)

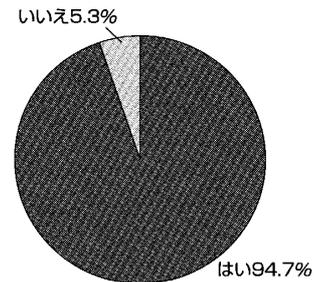


図42. 外出時のお化粧

調査のまとめ

胆振管内15市町村在住の50歳から80歳以上の女性789名を対象に、2001年5月上旬から9月下旬まで、衣服に関する意識調査について設問42のアンケート調査を行った。

[1] 対象者

50歳代8.3%、60歳代38.4%、70歳代43.9%、80歳以上9.4%で60歳代、70歳代が多く合計82%以上であった。一人暮らし29.2%、家にいる時間が多い人32.1%が含まれていたが、自分で衣服を購入する人97.4%、外出時にお化粧をする人94.7%、おしゃれに関心を持っている人94.6%と加齢に関係なく女性のおしゃれに対する関心が非常に高いことが明解になった。

[2] 色彩

所持数の多い服の色は、紺25.0%、ベージュ24.4%で共にレイアードしやすく、基本色として好まれている。

2001年の流行色において、加齢者の流行色に対する興味を把握しなかったが、カラフルで

カラーの種類が非常に多かったため対象者の選択が広範囲に及び割合の低いカラーが多かった。春夏ディレクション・カラー29色の中では、一番好きな色light yellow green10.7%、一番着てみたい色grayish pink9.5%で、好きな色、着てみたい色、所持している色に相違が見られ、年代別にも同様のことがいえる。秋冬ディレクション・カラー28色の中では、好きな色16.9%、着てみたい色12.6%はdark redで年代別も70歳まで同色で夏とは違う傾向が見られた。アイテム別の色で一番多い色は春夏が異なり、秋冬はボトムとコートが黒で同じであった。結果として、加齢に伴う色への固定概念は以前ほど少ない結果として捉えられる。

[3] 衣服のデザイン

流行に関係なく、一般的なデザインから選択してもらった。衿のデザインは、衿なしがラウンド・ネックライン64.3%、衿付きではオープンカラー34.6%が一番多かった。袖のデザインは、半袖がセットインスリーブ84%、長袖も同様で約52%と殆どの人がセットインスリーブを着用している。スカート丈は、ミディが多く着用されており、夏63.5%、冬43.5%で、特徴は次に多い丈に表れ、夏は短く涼しいミモレ23.2%、冬は長く暖かいアングル・レンジ42.7%と相違があった。スカートはタイトスカート28.8%、セミタイトスカート28%とシンプルなデザインが多く着用されている。ワンピースのシルエット別によるデザインでは、フィットアンドフレアー型43.7%で細く見えるデザインに人気があった。素材については、軽い布32.2%、ストレッチ素材28.8%で体に負担のかからない動きやすい素材を着用している。着脱しやすいあきは、前あき82.2%でファスナーが使用しやすい50.3%であった。

[4] 帽子・靴・アクセサリ・他

帽子をかぶる人は84%おり、その中で夏にかぶる人は97.5%で日除けのためのブリムの大きい帽子、冬にかぶる人88%は防寒のための毛糸の帽子が多く、季節的な実用面での要素が強い。

靴の種類はカッターシューズが一番多く、靴のトウの型は丸みを帯びた大丸型が45.3%、ヒールの高さ3cm以下の74.1%とデザインや流行重視ではなく、歩きやすく履きやすい靴を履いている。

アクセサリをつけている人は83.8%で用途範囲の広いスカーフが一番多かった。

外出時のお化粧も殆どの人がしており、身嗜みにも気を配っている。

[5] 身体への適合生・着心地

対象者の体型は肥満型が41.9%が一番多く、衣服にゆとりが必要な部位はウエスト43.6%が多かった。ウエストのデザインはベルトとゴムが一緒59.6%とすっきり見えてサイズカバー力のあるデザインが好まれている。着やすさを一番重視しており、体型に適合した衣服を着用している人は多いが、購入時には気に入ったデザインがなく、スーツの購入には不便を感じている。

家庭では活動的なセーターとパンツを着用する人が一番多く、外出時も同様であった。ホー

ムウエアーで一番欲しいアイテムはセーターで、外出着ではジャケット、スーツの順に要望している。

[6] その他

既製品だけを着用する人、既製品購入者は約80%である。自分の衣服は全てまたは一部製作する人もおり、割合は少ないが見逃せない部分で、洋裁を学んだ人や既製品のない時代に衣服を手作りした人が含まれていると推測される。

購入地域で一番多いのは苫小牧市で、苫小牧市周辺地域からの購入者が多いためである。大都市札幌での購入者は8.5%で、服の種類が豊富で選択肢が多いことが関係している。

外出着の購入は、デパートと婦人服専門店が多く(計90.7%)、日常着では75.8%である。日常着はスーパーマーケットでの購入が多い(18.7%)。品質重視の外出着は婦人服専門店の割合が増加、スーパーマーケットが減少している。ユニクロは、若年層を中心とするターゲットイメージによるものと推測される。

衣服に対する不満と要望は、デザインとサイズの意見が多かった。主な内容は「デザインの増加・体型に合った服・上下サイズの別販売・扱いやすい素材」などが挙げられ、身体に適合し、着やすくおしゃれな衣服を求めており、「購入時で苦勞する」設問(25)の結果と一致した。加齢になる程、色彩などの感性よりも着用して身体に負担のかからない衣服(身体に優しい服)を必要としていることが理解できる。

ドレスアイテムと品数、希望服種と価格の関係など現実的な事柄が優先されるが、生活上の目的や行動に適する衣服の審美性と機能性とのバランスの重要性、おしゃれに配慮し自分を自覚することによる痴呆防止の一助となる衣服の果たす精神的役割も見逃せない事柄である。

高齢化社会がさらに進む将来に向け「衣・食・住」の中で「衣」の部分がシルバー世代にとって一番遅れている。

介護服から普及し、着心地重視の加齢者衣服はデパートでも介護用品と同じ売り場になっている所が多い。東京では日本橋の三越本店・高島屋、立川の伊勢丹、銀座の松屋などで、北海道では札幌の三越デパートのみである。

加齢者を含めた全ての人に対応する衣服を最近アパレル業界が開発を始めており、レナウンの「スタイズ」、ナイガイの「マーマレード」、メディセフ インターナショナル カンパニーの「ブーランプラウ」などのブランドがある。(2001年12月末までの市場調査)

財団法人日本ユニホームセンター (N U C) は新たな衣料分野として、「ユニバーサルウエア」の研究・開発・普及を1999年から行っている。老若男女を問わず、あらゆる人が「着心地良く、簡単に着られ、軽く活動的で元気が出る」衣服をテーマとし、服装のバリアフリーとも考えられる。また、ユニバーサルファッション協会 (U N I F A) は従来の企業主導型ではなく、消費者

が作り出し消費者に受け入れられてファッションが成立する「消費者導入型のファッション型式」をとり、ユニバーサルファッション商品の発表会、研究データの出版やセミナー開催など多彩な活動を行っている。

商品のリスクを残さない販売方法としてインターネットによる受注製作販売も現在行われており、衣服を画像で購入する方法はパソコン普及の社会現象と衣服との新しい係わりを示している。

また、衣服の立体形状をリアルに表現したり、人の体型や衣服着用状態の動きを想定した三次元(3D)シミュレーションを行う衣服の三次元CADにより、アパレルにおけるインターネットビジネスも発展し、画像での衣服オーダーが可能になり、消費者に数々のメリットが生じる将来が訪れることも想定される。

このようなアパレルメーカーや社会状況を知ることにより、回答者の衣服に対する要望もある程度解消されると推測されるが、加齢者も消費者として様々な知識を身につけることも必要で難しい面もある。上記にあげたメーカーの衣服は現在、服種やデザイン面で消費者にとって充分満足できる状態ではない。このような市場状況と今回のシルバー世代の衣服に関する実態調査の結果を参考とし、今後は、衣服製作の研究に取り組みたいと思っている。

おわりに

今回のシルバー世代の衣服に関する実態調査を実施するにあたり、室蘭市教育委員会社会教育課係長 長江輝彦氏、胆振地方婦人会館主幹 橋本まり子氏、苫小牧市文化交流センター 川越俊隆氏をはじめ、胆振管内他14市町村の教育委員会およびアンケート実施担当者の皆様には、設問が多く時間と手間のかかる依頼を快く承諾して頂き、ご協力下さいましたことを衷心より感謝し、お礼を申し上げます。

また、アンケート回答にご協力いただいた皆様、室蘭市在住の採寸協力者の方、調査集計にご協力くださった本学事務機器実習Ⅱ担当の正岡孝雄先生、学生、その他係わりを持って下さいました方々にお礼申し上げます。

協力

- 日本色研事業株式会社
- 財団法人日本ユニホームセンター (NUC)
- 特定非営利活動法人ユニバーサルファッション協会

引用文献

- (1) 大枝一郎著「ファッションビジネスの基本(上)」ファッション教育社 1998年(P.66・P.67 本文のタイトルについて)
- (2) 文化女子大学講座「服装造形学 技術編Ⅰ」文化学園教科書出版部 2000年(スカート・袖絵型)

- (3) 飯塚弘子・万江八重子・香川幸子共著「服装デザイン論」文化出版局 1999年（衿・靴
絵型）
- (4) 文化服装学院編 文化ファッション大系 服飾造形講座③「ブラウス・ワンピース」文
化学園教科書出版部 2000年（ネックライン・ワンピース絵型）

参考文献

- (1) 小澤節子・林雅子 「高齢者衣料に関する研究（第1報）」－下着に関する実態調査－文
化女子大学研究紀要 29集 1998年
- (2) 橋本政良「英国における日本人学校生の文化意識（1）」－帝京ロンドン学園生の調査報
告－姫路短期大学研究報告 第43巻 1998年
- (3) 朝野敏夫「秘書・ビジネス教育についての考察Ⅲ」－企業の雇用動向調査と、「秘書士」
取得の卒業生、学生のアンケートから－文化女子大学室蘭短期大学研究紀要 第22号
1999年
- (4) 藤田薫子「女性高齢者用ホームウェアのデザイン開発」（第1・2報）東京都立産業技術
研究所 2001年
- (5) 繊維産業構造改善事業協会「アパレル色彩企画」カラリストのためのベーシックガイド
ンス 1997年
- (6) 今井弥生編著「色彩学・意匠学」家政教育社 1998年
- (7) 日本家政学会編「表現としての被服」朝倉書店 1991年
- (8) 佐々井啓編著「衣生活学」朝倉書店 2000年
- (9) 大野静江・石井照子編著「衣生活の科学」－衣生活論－ 建帛社 2000年
- (10) 渡辺聡子著「高齢者・障害者の被服」一橋出版株式会社 2000年
- (11) 横川公子編他「服飾表現の位相」昭和堂 1992年
- (12) 2001 Spring Summer&Autumn Winter FASHION COLOR No.64
日本色研事業株式会社 2001年
- (13) 2001 Autumn Winter&Spring Summer 2002 FASHION COLOR
No.65 日本色研事業株式会社 2001年
- (14) 新 田中千代 服飾辞典 同文書院 1990年